

町民みんなが先生、町民みんなが生徒。地域の魅力を発掘するまなび舎

せんねんのがっこう

【千年の学校】

旧町の時代から息づく、川根本町が全国に誇る「まちづくりの精神」

開催された「第3回日本上流文化圏会議」。全国から集結したまちづくり関係者が、地域の生き残りをかけた熱い討論をぶつけ合いました。

この会議で高まった「まちづくり」の気運を一過性のものにしてはならないとの考えから、1999年11月、本川根町は「1000年の学校準備委員会」を設立。21世紀を強く生き抜く人づくりと、日本人の心のふるさとづくりを目指し、学校設立に向けた検討会やワークショップを重ねました。

検討していく中で「学ぶものは地域学」、「キャンパスは町全体」、「誰でも学ぶことができる」など骨子は固まってきました。

そして、2001年10月、静岡文化芸術大学学長 故木村尚三郎氏を名誉学長に迎え、「千年の学校」は産声を上げました。

「千年の学校」開校
地域を学ぼうとする心が集う

千年の学校初の講座は「地域学」のダムに関わって30年間。本町接岨地区に長島ダム建設が持ち上がった当時から、ずっと地元で見守り、ある時は渦中の人となり調整役にもなった大石博人さんを講師に迎えて行われました。「千年の学校ってどんなことをやるんだらう」と、大きな期待と少しの

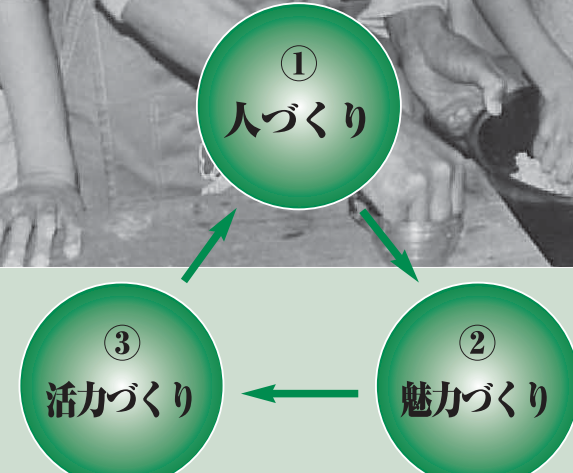


千年の学校に興味を持たれた方は、ぜひお問い合わせを。まちづくり観光協会
電話(59)2746まで。

学生に配布される「学生証」
千年の学校生である証です



大人と子どもが一緒に遊び、学ぶ場所



【千年の学校】が掲げる基本理念

①人づくり---地域を深く知る
地域の文化資源を掘り起こし、誇りと自信を持つ人材をみんな育てています。

②魅力づくり---地域をみがく
知識と技と誇りを持つ人は地域の魅力となり、その実践が地域の風景を美しくみがき、もてなしの心を生み出します。

③活力づくり---地域を発信する
人や風景やもてなしの魅力が人を呼び込み、情報やモノが交流し、らせん状に地域づくりの力が高まっています。

地域のことを地域で学ぶ
千年の学校の基本理念

山と森と川に囲まれて暮らし、自然と共生しながら生活の場を築きあげてきた先人の知恵と技は、戦後の急速な都市化の洗礼を受けながらも、なお今に受け継がれています。狩猟、漁業、山仕事、茶栽培といった生業、そこから生まれた生活のしきたりや食文化、神事や祭礼、伝統芸能にいたるまで、人々の体の中には古来から受け継がれる「千年の血」が流れているのです。

それら「内の力」を活かすこと、そして広く町外に伝えて「外の力」を呼び込むこと。地域づくりには、「内・外」両面の力が必要であり、どちらか一方が欠けても成り立ちません。

「千年の学校」は人づくり・魅力づくり・活力づくりを基本とした「循環型の地域づくり」を実践する、川根本町ならではの学び舎です。

この町に住む人々が、地域を学び、地域を知ること、この町で生きる誇りと自信を育んでいます。

大きな期待と少しの不安の中で
「千年の学校」の産声

1999年7月、旧本川根町(以下 本川根町)を会場として、

不安を感じながら出席した45人の第1期生は、心地良い緊張感に包まれていました。

建設当時のビデオが上映され、用地買収や町外移住など、地域内での対立やエピソードが話されると、大きくうなずく学生や、ハンカチ片手に涙を流す学生も見られました。

講座の最後に大石さんは「ダムのためこの地を離れた人々がいる。そして完成を見ることなく亡くなった人々がいる。そんな人々のことを思いながら後世に恥じないような地域づくりをしていくことが、残った人の義務だと思う」と結び、初の講座は終了しました。

千年の学校が目指すもの
そして、「ふり返れば、未来。」

あれから6年。360人の卒業生を輩出した千年の学校は、現在、第6期を迎えています。

2005年、旧本川根町と旧中川根町が合併し「川根本町」が誕生した現在も、人づくり・まちづくりの精神は、そのまま受け継がれ、確実に育まれています。

「ふり返れば、未来。」

私たちは、過去に学び、未来を見つめ続ける川根本町人です。この学校に性別や年齢の垣根はありません。誰でも入学できるのです。

この町を元気にできるのは「あなたの力」なのです。

参考図書「ひらけよう！千年の学校」(株)日本地域社会研究所 出版「コミュニティアップ」